



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和4年度 第7号
令和4年10月31日

後期の学習が始まります

校長 水野裕司

「いらっしゃいませ。」「ありがとうございます。」永山名店街と諏訪商店街に瓜生小学校2年生の元気な声が響きました。先週の24日(月)と28日(金)に生活科の学習でお店や事業所に仕事の体験やインタビューをさせていただきました。お客さんへの挨拶の他にも、コーヒーフィルターを綺麗に折ったり、チラシでゴミ箱を作ったりする。商品の陳列やバックヤードでの検品をする、クイズをつくり掲示するなど、お店ごとに様々な活動が展開されていました。子供たちは、1回目の体験の後、疑問に思ったことを整理したり、もっとお店の役に立つにはどうしたらよいかと作戦を考えたりして、2回目に臨みました。当日は、お掃除を手伝いたいと箒と塵取りを持参した班、宣伝のポスターを描いて掲示してもらった班、インタビューを1回目より上手にできた班など、それぞれ工夫した跡がたくさん見られました。また、近所を散歩中の幼稚園の子供たちが来店し、2年生が商品の案内をするという場面までありました。満足感いっぱいの笑顔あふれる学習をすることができました。

これまで、毎年お店で仕事の見学やインタビューをさせていただいていましたが、今年は体験活動までさせていただくことができました。この活動を行うためには、大変多くの大人の協力、打ち合わせが必要でした。まず、担任から今回の活動の概要を地域学校協働活動推進員の村松さんにお伝えしました。村松さんは、両商店街の店舗に連絡し、受け入れ可能なお店を探してくださいました。次に、受け入れ可能な店舗や事業所に、担任が直接連絡して打ち合わせを行い、当日は、15の店舗と事業所にご協力をいただきました。また、教員の引率に加え、延べ10名の保護者も児童の見守りをしてくださいました。

今回の活動を通し、コミュニティー・スクールにおける「地域学校協働活動推進員」の位置づけと役割について地域の方々に知っていただくよい機会ともなりました。今後も、地域学校協働活動推進員と連携し、地域に根差した教育活動を推進してまいります。

最近、毎日のお天気に敏感な学年があります。6年生は、総合的な学習の時間に、地球温暖化への対策としてクリーンなエネルギーの重要性について学びました。そこで、再生可能なエネルギーの発電を自分達でもやってみようと、様々な方法で取り組んでいます。

ペットボトルで作った風車を使った風力発電、教室内に自転車を持ち込み自作の発電機を人力で回す発電、ソーラーパネルによる太陽光発電、家の近くにある小さな流れを使った水力発電を行い、少しずつ蓄電池に貯めています。子供たちは当初考えていたよりも蓄電が進まず苦戦しています。日頃何気なく使っている電気は、そんなに簡単に手に入らないということを肌で感じてほしいと考えています。また、貯めた電気を今後どのように使うのか、気になるところですが、そこは、6年生が相談して決めていきます。どのような結論になるのか楽しみです。

今回紹介した2年生や6年生のように、どのような活動や体験をしてみたいか、子供たち自身が考え、相談し、実行する。このような学習を行うには、教員の意図的な仕掛けや準備もさることながら、子供たちの思いや考えが熟してくるまでじっくりと待つ、大人の粘り強さも大切です。後期も、このような時間を大切にしながら瓜生小学校の教育活動を進めていきたいと考えています。